

# 2025年1月例会レポート



そろそろ正月気分も抜けてきた1月12日、東京海洋大学の白鷹館において、2025年第1回の例会が開催されました。昨年1月14日の青麗発足句会からちょうど1周年の記念すべき回です。参加者は、初参加の方も含め38名、艶やかな和装姿の方もちらほら、華やかな句会始となりました。

今回の例会に先立ち、主宰の新装版上梓と青麗1周年を記念して、朔出版の鈴木さまから花束の贈呈、及び祝辞をいただきました。

## 【主宰から】

- 6月に開催される第36回黒羽芭蕉の里全国俳句大会の要綱および投句用紙を受付で配布しました。主宰が選者を務められますので、奮ってご応募下さい。なお、これに合わせて第3回「青地巡礼」の実施を検討していましたが、今回は見送りとし、同地での開催は別途企画予定です。
- 月刊誌「俳壇」の2025年2月号口絵「俳人の住む町」に主宰が写真と短文を寄せています。
- 月刊誌「俳句四季」の2025年2月号に主宰の作品が掲載されます。

## 【各自披講・高得点句の合評】

今回は、出句数が全117句揃いました。いつものように、ジョニー平塚さんの名司会のもと参加者全員による披講を終えた後、互選高得点句(4~9点句の計9句)の合評を行いました。新年句も多く、句会始らしい句が並びました。

## 【主宰選・講評】

休憩をはさみ、後半は主宰選・講評の時間です。今回は☆が12句、☆☆が6句、☆☆☆が5句、主宰選句が発表されました。自分しか選句していない句に☆が付くと、少しニヤリとしてしまいます。また、作者の自句自解から句の意外な背景や成り立ちを知ることができ、句会ならではの楽しいひとときとなりました。

主宰より、類想感のある句は評価が難しい、とのコメントがありました。初学者にとって類句の有無を確認するのはなかなか難しいのですが、ここは先人の句をたくさん読むしかなさそうです。

続いて、全員に対する講評および添削が行われました。毎回、1字変えるだけで句が見違えるような添削例をいくつも示していただき、大変参考になります。

主宰からの主なコメントは以下の通りです。

- 中八の字余りは極力回避すべき。語順の変更、(言いたいことを変えずに)単語の変更等で解消できることもある。
- 助詞の使い方に注意。助詞を省略することで句調を整えられる場合がある一方、上五を字余りにしてでも使った方が効果的な助詞もある。接続助詞「て」は連続した句では多用しない方がよい。
- 季語が複数ある場合、主たる季語を上五に置くなどの調整で、句全体の焦点がはっきりする。

- 解釈が難しい句は句会ではなかなか取りづらい。必要に応じて前書を付けることで、句の意図が分かりやすくなる場合もある。
- 夏雲投入の際の変換ミス(送り仮名、英数字等)には要注意。

### 【事務局からの連絡】

- 第2回「青地巡礼」の案内メールを全員宛に送付済です。メールが届いていない方は、事務局までご連絡ください。今回は会費の振込をもって参加申込完了となります。(詳細は青麗 HP 参照)
- 3月9日の例会は通常通り開催予定です。

次回の例会は、はや初春の2月9日です(投句メ切は2月2日)。インフルエンザなど流行しているようですが、皆さまどうぞお体に気を付けてお過ごしください。

(文責：磯部 安志)

